

第2－7節

ब्रह्मवर्चसकामस्तु यजेत ब्रह्मणः पतिम् ।
 इन्द्रमिन्द्रियकामस्तु प्रजाकामः प्रजापतीन् ॥ २ ॥
 देवीं मायां तु श्रीकामस्तेजस्कामो विभावसुम् ।
 वसुकामो वसून् रुद्रान् वीर्यकामोऽथ वीर्यवान् ॥ ३ ॥
 अन्नाद्यकामस्त्वदितिं स्वर्गकामोऽदितेः सुतान् ।
 विश्वान्देवान् राज्यकामः साध्यान्संसाधको विशाम् ॥ ४ ॥
 आयुष्कामोऽश्विनौ देवौ पुष्टिकाम इलाम् यजेत् ।
 प्रतिष्ठाकामः पुरुषो रोदसी लोकमातरौ ॥ ५ ॥
 रूपाभिकामो गन्धर्वान् स्त्रीकामोऽप्सर उर्वशीम् ।
 आधिपत्यकामः सर्वेषां यजेत परमेष्ठिनम् ॥ ६ ॥
 यज्ञं यजेद् यशस्कामः कोशकामः प्रचेतसम् ।
 विद्याकामस्तु गिरिशं दाम्पत्यार्थं उमां सतीम् ॥ ७ ॥

brahma-varcasa-kāmas tu
 yajeta brahmaṇaḥ patim
 indram indriya-kāmas tu
 prajā-kāmaḥ prajāpatīn

devīm māyām tu śrī-kāmas
 tejas-kāmo vibhāvasum
 vasu-kāmo vasūn rudrān
 vīrya-kāmo 'tha vīryavān

annādya-kāmas tv aditiṁ
 svarga-kāmo 'diteḥ sutān
 viśvān devān rājya-kāmaḥ
 sādhyān saṁsādhako viśām

āyuṣ-kāmo 'śvinau devau
 puṣṭi-kāma ilām yajet
 pratiṣṭhā-kāmaḥ puruṣo
 rodasī loka-mātarau

rūpābhikāmo gandharvān
strī-kāmo 'psara urvaśim
ādhipatya-kāmaḥ sarveṣām
yajeta parameṣṭhinam

yajñam yajed yaśas-kāmaḥ
kośa-kāmaḥ pracetasam
vidyā-kāmas tu giriśam
dāmpatyārtha umām satīm

brahma—絶対者; *varcasa*—光輝; *kāmaḥ tu*—しかしそのように望む者; *yajeta*—崇拜する; *brahmaṇaḥ*—ヴェーダの; *patim*—師; *indram*—天界の王; *indriya-kāmaḥ tu*—しかし、強い感覚器官を欲しがる者; *prajā-kāmaḥ*—多くの子孫を望む者; *prajāpatīm*—プラジャーパティたち; *devīm*—女神; *māyām*—物質界の女性達に; *tu*—しかし; *śrī-kāmaḥ*—美しさを望む者; *tejaḥ*—力; *kāmaḥ*—そのように望む者; *vibhāvasum*—火の神; *vasu-kāmaḥ*—富を望む者; *vasūn*—半神ヴァス; *rudrān*—主シヴァのルドラ拡張体; *vīrya-kāmaḥ*—頑強に作られた肉体を望む者; *atha*—ゆえに; *vīryavān*—もともと力強い; *anna-adya*—穀物; *kāmaḥ*—そのように望む者; *tu*—しかし; *aditim*—半神達の母、アディティ; *svarga*—天国; *kāmaḥ*—そのように望んでいる; *aditeḥ sutān*—アディティの息子達; *viśvān*—ヴィシュヴァデーヴァ; *devān*—半神; *rājya-kāmaḥ*—王国を渴望する者達; *sādhyān*—半神サーデヤ; *saṁsādhakaḥ*—その望みを叶える物; *viśām*—商業者階級の; *āyuh-kāmaḥ*—長寿を望んで; *aśvinau*—アシュヴィニー兄弟として知られる二人の半神; *devau*—二人の半神; *puṣṭi-kāmaḥ*—頑強に作られた体を望む者; *ilām*—地球; *yajet*—崇拜しなくてはならない; *pratiṣṭhā-kāmaḥ*—優れた名声、あるいは安定した地位を望む者; *puruṣaḥ*—そのような者達; *rodasī*—地平線; *loka-mātarau*—そして地球; *rūpa*—美しさ; *abhikāmaḥ*—~を明確に求めている; *gandharvān*—非常に美しく、そして歌唱力に優れたガンダルヴァ惑星の住民達; *strī-kāmaḥ*—良妻を望む者; *apsaraḥ urvaśim*—天界の社交界の少女達; *ādhipatya-kāmaḥ*—他人を支配する望みを持つ者; *sarveṣām*—誰でも; *yajeta*—崇拜しなくてはならない; *parameṣṭhinam*—宇宙の長、ブラフマー; *yajñam*—人格主神; *yajet*—崇拜しなくてはならない; *yaśaḥ-kāmaḥ*—有名になる望みを持つ者; *kośa-kāmaḥ*—恵まれた貯蓄を望む者; *pracetasam*—ヴァルナという名で知られた天界の出納官; *vidyā-kāmaḥ tu*—しかし、教育を望む者; *giriśam*—ヒマラヤ山脈の主 (ぬし)、主シヴァ; *dāmpatya-arthaḥ*—そして夫婦愛のために; *umām satīm*—ウマーという名で知られる主シヴァの貞節な妻。

非人格のブラフマジヨーティの光に入りたい者は、ヴェーダの主 (ぬし) (主ブラフマー、

あるいは学識の僧侶ブリハスパティ)を崇拜し、強い性的力を求める者は天界の王インドラを崇拜し、優れた子孫を望む者はプラジャーパティと呼ばれる偉大な先祖を崇拜しなくてはならない。幸運を望む者は、物質界を治めるドウルガーデーヴィーを崇拜しなくてはならない。力、金銭を求める者はヴァスたちを崇拜すべきである。偉大な英雄になりたい者は、主シヴァの化身であるルドラを崇拜しなくてはならない。大量の穀物を蓄えたい者はアディティを崇拜すべきである。天上の惑星に行きたい者はアディティの子息たちを崇拜しなくてはならない。王座が欲しい者はヴィシュヴァデーヴァを、そして大衆の人気を望む者は半神サーダヤを崇拜すべきである。長寿を求める者はアシュヴィニー・クマールという名の半神たちを崇拜し、強靱な体を求める者は地球を崇拜すべきである。安定した地位を望む者は地平線と地球を併せて崇拜すべきである。美しくありたい者はガンダルヴァ惑星の美しい住人たちを、良妻を求める者は天界に住むアプサラとウルヴァシーの社交界の少女たちを崇拜すべきである。他人を支配する力を望む者は宇宙の長である主ブラフマーを崇拜しなくてはならない。揺るぎない名声を望む者は人格主神を、十分な貯金が欲しい者は半神ヴァルナを崇拜すべきである。ひじょうに博識な人間になりたいければ主シヴァを崇拜し、良好な夫婦関係を望むのであれば主シヴァの妻である貞節な女神ウマーを崇拜すべきである。

要旨解説

特定の目標を達成しようとするさまざまな人々に多様な崇拜の方法が用意されています。物質界という制約された世界に住む条件づけられた魂は、物質的なことをすべて楽しめるわけではありませんが、この節が述べているように、半神を崇拜すれば、楽しもうとする対象を達成する影響力が得られます。ラーヴァナは主シヴァを崇拜して屈強になりましたが、主シヴァを喜ばせるためによく生首を捧げていました。そして主シヴァのおかげで権力を得て、半神たちはその力を恐れましたが、結局、人格主神シュリー・ラーマチャンドラに挑んだことで滅びました。つまり、物欲を求めるこのような人間、あるいは愚かな物質主義者は、『バガヴァッド・ギーター』（第7章・第20節）が断言しているように「賢くない」ということです。またこの節では、良識をことごとく失ってしまった者、あるいはマーヤーの惑わせる力で知性を奪われた者は、さまざまな半神を喜ばせたり科学を発達させて物質文化を高めたりして物欲を満たそうとする、とされています。人生のほんとうの問題は、生老病死という苦難の解決です。生きる権を奪われたくない、死にたくない、老いぼれたくない、病気になりたくない——それでも、このような問題は半神たちに頼んでも、物質科学に頼っても解決できません。『バガヴァッド・ギーター』や『シュリーマド・バーガヴァタム』も、そのような知性のない人間たちは良識がまったくない、と言っ

ています。シュカデーヴァ・ゴースヴァーミーは、「840万種類の生命体のなかでも、人間はもっとも希有で価値ある存在であり、その希な人類のなかでも、物質的な問題に気づいている者はさらに希な存在であり、さらに希なのは、主と主の献愛者たちのメッセージを収めている『シュリーマド・バーガヴァタム』の価値を知る者たちである」と言っています。死はだれにも——賢くあろうが愚かであろうが——避けられません。しかし、パリークシット・マハーラージャはシュカデーヴァ・ゴースヴァーミーから、*manīṣī*(マニーシー)、ひじょうに気高い心を持つ者、と呼ばれました。それはかれが、死ぬときに物欲をすべて捨て、シュカデーヴァ・ゴースヴァーミーという適切な人物から主の教えを聞いて主の蓮華の御足に完全に身をゆだねたからです。しかし、物質的な楽しみを求めて努力する人たちがめざす願望は、非難されています。そのたぐいの願望は墮落した人間が欲しがる陶酔物と同じです。賢い人はその望みを捨て、ふるさとに、神のもとに帰って得られる永遠な生活を求めなくてはなりません。